このスポット・おすすめ!

美食の国ペルーの家庭料理が一堂に **サルサ**

移民3世の姉妹が切り盛り 飾らない本場の味をお届け

沖縄市美里の国道329号線沿いにあるペルー料理専門店です。お店を切り盛りするのは、移民3世のセシーさん・パティーさん姉妹。南米ペルーの首都リマで生まれ育ち、約30年前に帰沖して、家族で別の場所で店を営んできましたが、2014年に現在の店舗を姉妹でオープン。セシーさんがピザを担当し、その他の料理はパティーさんが手がけています。

「ペルーは美食の宝庫。統治期間の長かったスペインをはじめ、日本、中国、イタリア、アフリカなど世界各地からの移民の影響により、多種多様な味が融合した独特の食文化があるんですよ」とパティーさん。同店に名を連ねるメニューは、ペルーでは広く親しまれている家庭料理が中心。いわば沖縄の大衆食堂のようなメニューのラインアップです。食材選びにもこだわり、鶏肉は新鮮な県産若鶏、野菜はオーガニックを使用し、必要なものは現地から直輸入。日本人の舌に合わせることは意識せず、「当たり前に食べやすくておいしい料理をつくることだけを心がけています」。

世界地図を改めて見渡すと、ペルーがあるのは沖縄から見て地球の裏側。「高い飛行機代を払わずに、本場の味を楽しめます(笑)。ぜひ食べに来て」とご姉妹。クリスマスシーズンは、ケーキ、ピザ、チキンをはじめ全品テークアウトだけの受け付けになるので、ゆっくり食事を楽しみたい方は11月中にお早めに♪

住所：沖縄市美里4-16-1
電話：098-938-6950
営業：11時30分～21時
休み：日・月曜日
駐車：5台

〈写真の料理メニュー〉
【手前】ローストチキンとアンティクーチョのコンボ　1,700円…（日本食の影響を受けたペルー料理の代表格。ポテトorライス、スープ付き）
【左奥】パパアラウアンカイナ　580円…（茹でジャガイモのピリ辛チーズクリーム）
【右奥】アロス・コン・ポヨ　1,000円…（コリアンダー入りチキンピラフ。スープ付き）
●自家製ピザ各種　Sサイズ(25cm)1,000円～　Mサイズ(30cm)1,200円～
●自家製ケーキ各種　1ピース200円～

なぞなぞに 読者 答えて プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『サルサ』で使える

2,000円分 お食事券 **3名様**

Q なぞなぞ
1枚だときれないけど、たくさんだときれる紙って、何？

ヒント 最初にきってから使うもの

10月号当選者　前号の答え〈ソフトボール〉

おめでとうございます！
★中野 はるかさん(読谷村在住)
★島尻 直樹さん(沖縄市在住)
★與儀 遥世さん(読谷村在住)

ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

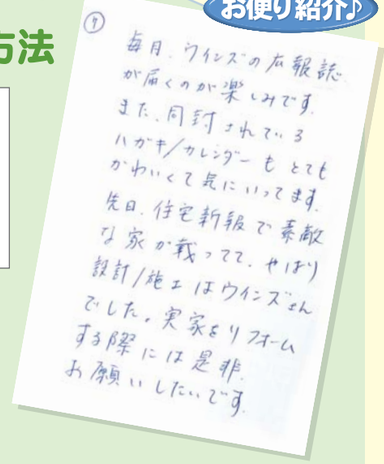
宛先
切手 はがき 904-0303
読谷村字伊良皆237-1
ウインズ
『広報誌係』
①住所 ②氏名
③年齢 ④職業
⑤電話番号
裏
⑥なぞなぞの答え
⑦ご意見 ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい！

締め切り
2018年11月20日消印有効
「当選者は次号(Vol.171)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。（ウインズ広報誌係）

お便り紹介♪


毎月、ウインズの広報誌が届くのが楽しみです。
また、同封されているハガキ/カレンダーもとてもかわいくて気にいってます。
先日、住宅新報で素敵な家が載ってて、やはり設計/施工はウインズさんでした。実家をリフォームする際には是非お願いしたいです。

Fresh ウインズ

人と人とのつながりを大切に…。池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌

60th Anniversary
Fresh Winds
2018年 11月号
Vol.170

TOKYO 2020

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00～18:00（年末年始を除く）

住宅のメンテナンスや補修等のご相談は、お気軽にスタッフへお声掛け下さい！

0120-229-512　ウインズ 池原建設　検索

今月の歳時記

11月1日(木)～	**ホテル日航アリビラ パティオイルミネーション** 会場・開催地／読谷村・ホテル日航アリビラ エントランス、パティオ、プールサイド
11月3日(土)	**おきなわ芸能フェスティバル 2018** 会場・開催地／沖縄市・沖縄こどもの国
11月10日(土)・11日(日)	**第30回記念「ツール・ド・おきなわ2018」大会** 会場・開催地／名護市21世紀の森体育館[スタート・ゴール]、本島北部一帯
11月25日(土)	**第29回 中部トリムマラソン** 会場・開催地／沖縄市・沖縄県総合運動公園陸上競技場[スタート・ゴール]

11月に入り、沖縄もそろそろ冬支度。県内各地のイルミネーションに明かりがともり、爽やかな陽気を待っていたかのように、マラソンや自転車などのスポーツイベントが続々と開かれます。

中面では11月1日で開局10周年を迎えるFMよみたんを特集しています。

ストリートストーリー
Street Story!

FMよみたん開局10周年。リスナーの喜びの声が活動の糧
現場スタッフが語る地域放送局のこれまでとこれから

■「10年間頑張ってこられたのは、村民の皆さんをはじめ、ボランティアパーソナリティーやスポンサーの皆さん、そして全国のリスナーの皆さんのおかげ。これからもよろしくお願いします！」と笑顔で語るFMよみたんのスタッフの皆さん（仲宗根朝治社長＝右から4人目、比嘉美由紀さん＝その左隣、金城礼子さん＝右から2人目）

毎日の耳の恋人「FMよみたん」が11月1日で開局10周年を迎えます。ドタバタで慌ただしい毎日を送りながらも地道に地域からの信頼を重ね、局の成長を現場で支えてきたスタッフの皆さんは、どのような思いで節目の時を見つめているのでしょうか。「べにいも村イモーニング」パーソナリティーを務める比嘉美由紀さん、「シエスタ読谷FMランチ」水曜日担当の金城礼子さんのお2人に、これまでの思い出とこれからの展望を伺いました。

比嘉美由紀さん
「地域の皆さんに育ててもらった」

「振り返る余裕もなく、前だけを向いてひたすら駆け抜けてきた10年間。毎日がチャレンジの連続でした」と振り返る比嘉美由紀さん。開局当時、実際にスタジオを切り盛りしていたのは、社長の仲宗根朝治さんを含め2人だけ。ボランティアパーソナリティ1期生だった美由紀さんも、自身の番組の放送に加えて次第に運営に携わるようになりましたが、「果たして何が正解なのか分からず、走りながら軌道修正していく状態でした」。

■今年10月に「第11回タイムス地域貢献賞」を受賞。式典後にスタッフ・役員で記念撮影

■初放送は2008年11月1日の読谷まつりの日からスタートしました

振り返れば、開局初日からチャレンジは始まっていました。覚えている方もいるでしょうか、FMよみたんの記念すべき初放送は、2008年11月1日「読谷まつり」会場からの生中継。準備万端に「いざ開局！」ではなく、会社設立の3カ月後に迫った「読谷まつり」を開局日と決めて、猛スピードで準備を整え本番に挑みました。同様のスタイルは今も変わりなく、主に仲宗根さんが発案したバラエティー豊かなアイデアを実現するために、スタッフ全員で知恵を出し合い奔走するのがFMよみたんの常のようです。

以前は新幹線パーサーとして働いていた美由紀さんにとって、ラジオパーソナリティーの仕事はもちろん初体験でした。「マイクを持って話す仕事に子どもの頃から憧れていた」とはいえ、いきなり任されたのが「平日の毎朝7時から2時間生放送」という大役。番組後は毎日反省と勉強を繰り返しつつ、村中を巡って地域の声を拾ったり、時には営業したり。経験の蓄積はやがて実力になり、今ではれっきとした一人のしゃべり手に。そして改めて実感するのは「地域の皆さんに励まされ、育ててもらった」こと。「足元の大切な情報を届ける」メディアとしての使命感も芽生え、今年9月の台風時には、スタジオにこもって村内の災害情報と心安らぐ音楽などを発信し続けました。「その後あちこちで感謝の言葉をかけていただき、頼りにされる存在になったことを痛感しました。有り難いことですね」。

■比嘉美由紀さんが毎朝担当する「べにいも村イモーニング」は開局時からの名物番組

金城礼子さん
「コミュニティーFMのお手本のような会社」

金城礼子さんの肩書は業務主任。総務・広報・ふるさと納税に関わる仕事を主に担当していますが、「シエスタ読谷FMランチ」などのパーソナリティーもこなし、軽快なトークを披露しています。FMよみたんには「最低でも一つの番組を受け持ってマイクの前で放送する」との暗黙の了解があるらしく、目下13人に増えたスタッフは全員、何らかの形で「放送業務」をなりわいにしているそうです。

そもそも礼子さんが入社したきっかけは、バスガイド仕込みのトークのうまさを買われた「スカウト」でした。8年前、知人主催のイベント告知のため番組に出演した際、受け答えの様子に好印象を覚えた仲宗根さんが一本釣り。当面はそのとき抱えていた仕事の合間を縫って週に1、2回顔を出す程度でしたが、「ぜひFMよみたんの一員に」との熱いオファーを受け、2013年7月から正式にメンバーに加わりました。

美由紀さんとは公私を問わず、何でも相談し合える姉妹のような間柄。大きく異なるのは、会社の成長とともにキャリアを重ねてきた美由紀さんに対し、中途入社の礼子さんは、FMよみたんの存在を客観的に見続けてきたこと。入社前、旅行業界出身で人気添乗員だったという仲宗根さんの仕事ぶりについて、「すべての旅行者に楽しい思い出を作ってほしい、との一心で働いていた前職時代と同じ心意気で、今度はマイクの向こう側にいるすべてのリスナーに喜んでもらうために、番組作りと会社経営に取り組んでいる」とバスガイド目線で分析。また村外出身で村外在住という「外部」の視点から、「行政との協力体制が万全で距離感も絶妙。コミュニティーFMの模範的なビジネスモデルとして、全国に発信できるのではないか」と冷静に評価していました。会社内部の人間になった現在も、当時の見立てに変わりはありません。

■金城礼子さんが水曜日担当の「シエスタ読谷FMランチ」は平日12時からの1時間番組

100年企業を目指し新たな挑戦が始まる

節目となる10年目以降、お2人はどんな会社像を展望しているのでしょうか。

まず率先・継続して取り組むべきと考えているのが、放送品質のさらなる向上です。2013年には映像事業部を立ち上げ映像配信にも力を入れるなど、「FMよみたんならどんな放送にも対応できる」との認識が広まりつつありますが、今後は「できて当たり前。すべての面でレベルアップを図りたい」と一つ上のステージを目指しています。

その背景には、早い時期からインターネット配信を手がけてきたことで、「想像以上に多くの方々が聴いてくれている」との意識がありました。村内・県内はもちろん、全国のリスナーから毎日のようにメールが届き、東京と山形には私設ファンクラブが立ち上がるほど。だからこそ「コミュニティーFMだから、とは思われたくない。選ばれる一流のラジオ局でありたい」との自覚が生まれ、チャレンジ精神にも拍車が掛かります。

次に、目標に掲げている「100年残る企業」の歩みに向けて、会社の形を整えていくことも、これからの大きな課題です。礼子さんは入社当時、「会社というより家族のような組織」との印象を抱いたそうですが、それは見方を変えれば「中にいればとても心地良いけれど、逆に外部の人に対して対しては、入り込みにくい雰囲気を与えているかもしれない」とも感じていました。100年企業の実現には、外部の新鮮な視点・感覚を取り入れながら、雇用・育成・キャリア形成を継続して行える仕組みづくりが不可欠です。また仲宗根さんが今年度から読谷村商工会の会長に就任し、社外での任務が増えてきた現在、美由紀さんは新たに執行役員の役割を担い、「役員の皆さんと現場との距離をもっと縮めて、活発に意見交換していきたい」と意気込んでいます。

節目の11月1日を前に、FMよみたんは県内のメディア企業としては初めて「タイムス地域貢献賞」を受賞されました。10月20日に祝賀会が催され、席上で仲宗根さんは「活動できるのは村民が受け入れてくれるからこそ。この関係を大事にこれからも頑張っていきたい」とあいさつ。そして来たる11月24日には「未来へつなぐFMよみたん～100年残る企業を目指して～」と題して、開局10周年記念パーティーが開かれます。